

デイリージーザスニュース #014

イエスの宣教準備の30年

イエスの誕生と成熟への成長

の視点から見たイエスの受胎と誕生

1.18-25 マタイ 1.18-25

=====

18 イエス・キリストの誕生は次のようなものでした。母マリアはヨセフと婚約していましたが、二人が夫婦になる前に、聖霊によって身ごもりました。19 夫のヨセフは律法を守る正しい人でしたが、マリアを公然と辱めることを望まず、ひそかに離婚しようと考えました。

20 しかし彼が深く考えていたとき、主の使いが夢に現れて言った。

「ダビデの子ヨセフよ、恐れることなくマリアを妻として迎えなさい。マリアの胎内に宿っているのは聖霊によるのです。21 彼女は男の子を産みます。その子にイエスと名付けなさい。彼は民をその罪から救うからです。」

22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたことが成就するためであった。

23 「処女がみごもって男の子を産みます。その子はインマヌエルと呼ばれます。これは「神は我々とともにおられる」という意味です。」

24 ヨセフは目を覚ますと、主の天使が命じたとおりに、マリアを妻として迎え入れた。25 しかし、マリアが男の子を産むまでは、彼女と肉体関係を持つことはなかった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、*赤い斜体はイエスの言葉を示します。*

コンテキストダイジェスト

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

位置	ガリラヤのナザレ
時間	の妊娠初期
イエスの生涯	イエスの宣教準備の30年
	イエスの誕生と成熟への成長
タイトル	の視点から見たイエスの受胎と誕生

今日の朗読は、イエスの受胎と誕生の物語の中で、ヨセフの視点から出来事にアプローチする唯一のテキストです¹。世紀のユダヤ文化では、イエスの法的および公的な地位は父親から受け継いだため、これはイエスの生涯の記録の重要な側面でした。マタイによる福音書 1 章と 2 章に登場するヨセフの描写は、状況に関係なく神に素早く従い、神を信頼した、思慮深く敬虔な人です。神は、信仰と謙遜を持つ人に息子の保護と成長を託すことによって、息子の人生を用意しました。

マリアは婚約中に妊娠するという屈辱を、それが起こる前に受け入れなければなりませんでした（しかも夫の子ではない）。一方ヨセフは、妻が妊娠するという屈辱を、それが起こる後に受け入れなければなりませんでした（自分の子ではない）。ヨセフは、彼女の不可解な妊娠に性急に反応するのではなく、時間をかけて慎重に祈りながら状況を検討しました。ヨセフはマリアと彼女の将来を心配し、決断を下す間、できる限り彼女を守るよう努めました。ありがたいことに、神は天使を通して夢の中でヨセフに語りかけ、マリアがすでに彼に告げていたことを確認しました。

「イエス」という名前をつけるよう命じられました。ヨハネ洗礼者ヨハネにつけたゼカリヤのように、これは長子に父親の名を付けるという一般的な慣習に反しているように思われます。アダムに遡る家系全体の中で、その名前を持つのはイエスだけです。しかし実際には、この名前はイエスが神の子であり、完全に神であることを強調しています。つまり、ヨセフではなく神が本当の父親だったのです。長子であるイエスは、結局、本当の父親にちなんで名付けられたのです。

ギリシャ語の「イエス」はヘブライ語で「救うヤハウェ」を意味します。旧約聖書全体を通して、ヤハウェだけが救世主であり、神だけが罪を赦すことができます。ですから、イエスは実の父の名、ヤハウェ、主を名乗ったのです。イエスは罪から救う神であるため、その名にふさわしいのです。「イエス」という名前は、神の子としての神性を力強く主張するものです。

「**神は我々と共におられる**」という意味の「**インマヌエル**」という称号によってさらに強化されました。**イエスは人間の肉体をまとった我々と共におられる神であり、それゆえイエスを「救うヤハウェ」**として信じるすべての人に、父、子、聖霊である神の永遠の存在の確信と言葉に尽くせない喜びをもたらします。

ヨセフが目覚めてすぐに主の命令に従ったことから、彼の謙虚さと従順な態度が分かります。妊婦のマリアは世話を必要としていました。ヨセフは彼女に世話をしました。ヨセフは妊娠の状況から若い夫婦に渦巻く噂に屈辱を感じても、イエスの代理母の世話をすることで神に仕え、神を愛していました神。が御子を託すことができるのは、このような人でした。

応用：

の福音書にあるイエスに関する最初の言葉と最後の言葉は、どちらもイエスがいつまでも存在し続けることを表現しています。イエスは受胎の際、**「神は私たちとともにおられる」と宣言**されました。イエスが私たちに向けて残した最後の言葉は、**「わたしは世の終わりまで、いつもあなたたちとともにいる」**でした。（28.20）

神だけが、私たちと共に永遠の住まいを築き、常に私たちと共にいられるのです。イエスは、私たちと共にある神の永遠の存在を妨げるあらゆる障害を取り除くために、**「人々を罪から救います」**。

の赦しとあなたと共にある存在を喜び、常に再び焦点を当てるために、今日あなたは何をしますか？

今日、たとえ理解できないとしても、神の指示にどう従う必要があるでしょうか。